



2007年4月23日

2 0 0 7 年 6 月 期
第3四半期(3Q)
決算補足資料

株式会社 構造計画研究所

【本資料についての注意】

本資料に記載されている業績予想等は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は経済情勢等様々な不確定要因によりこれらの予想数値と異なる場合があります。

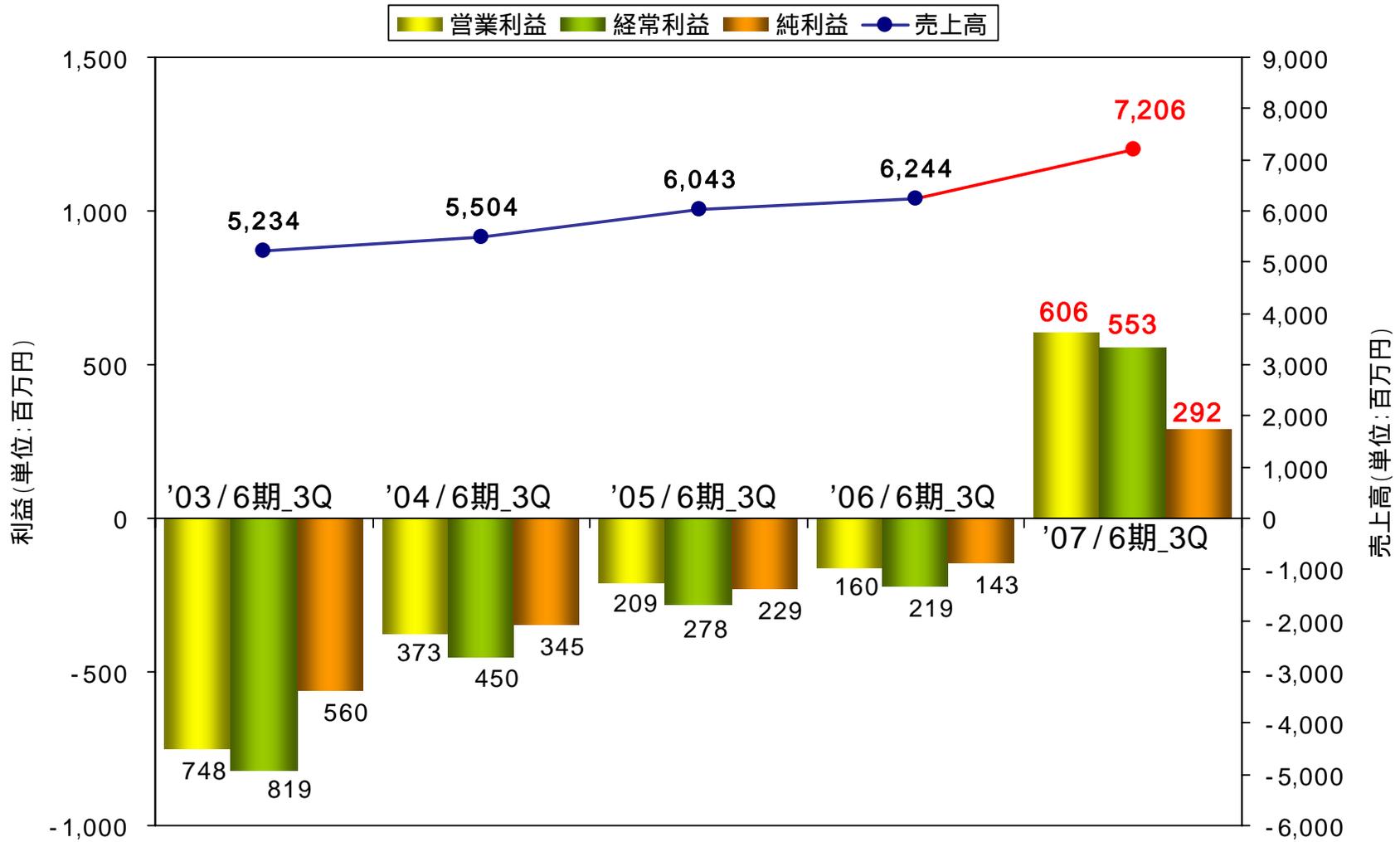
アジェンダ

1. 第3四半期業績について..... 2
2. 財務諸表..... 8
3. セグメント別状況..... 12

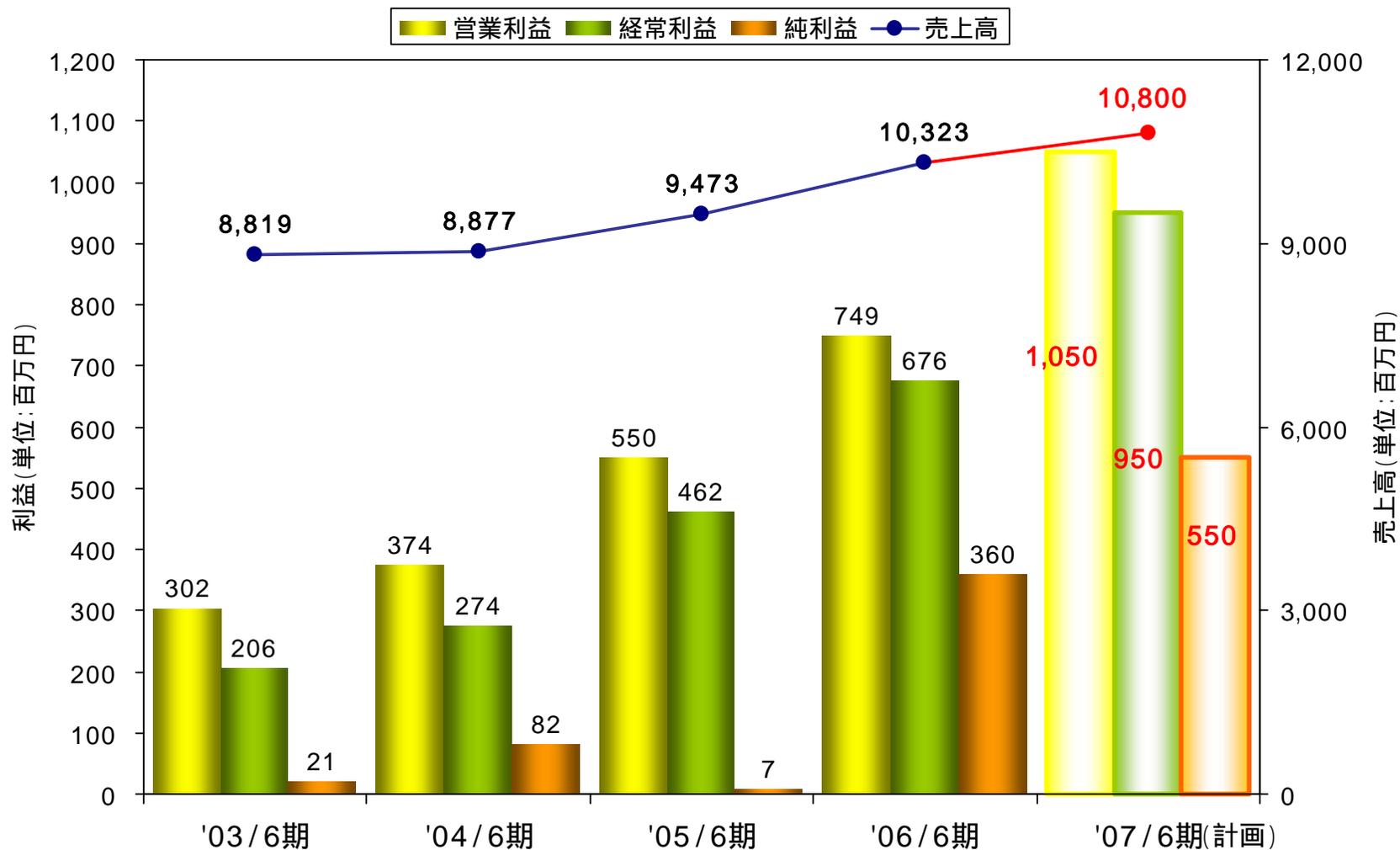
(注) 本資料の記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております

1. 第3四半期業績について

第3四半期の業績推移



通期の業績推移



決算ハイライト

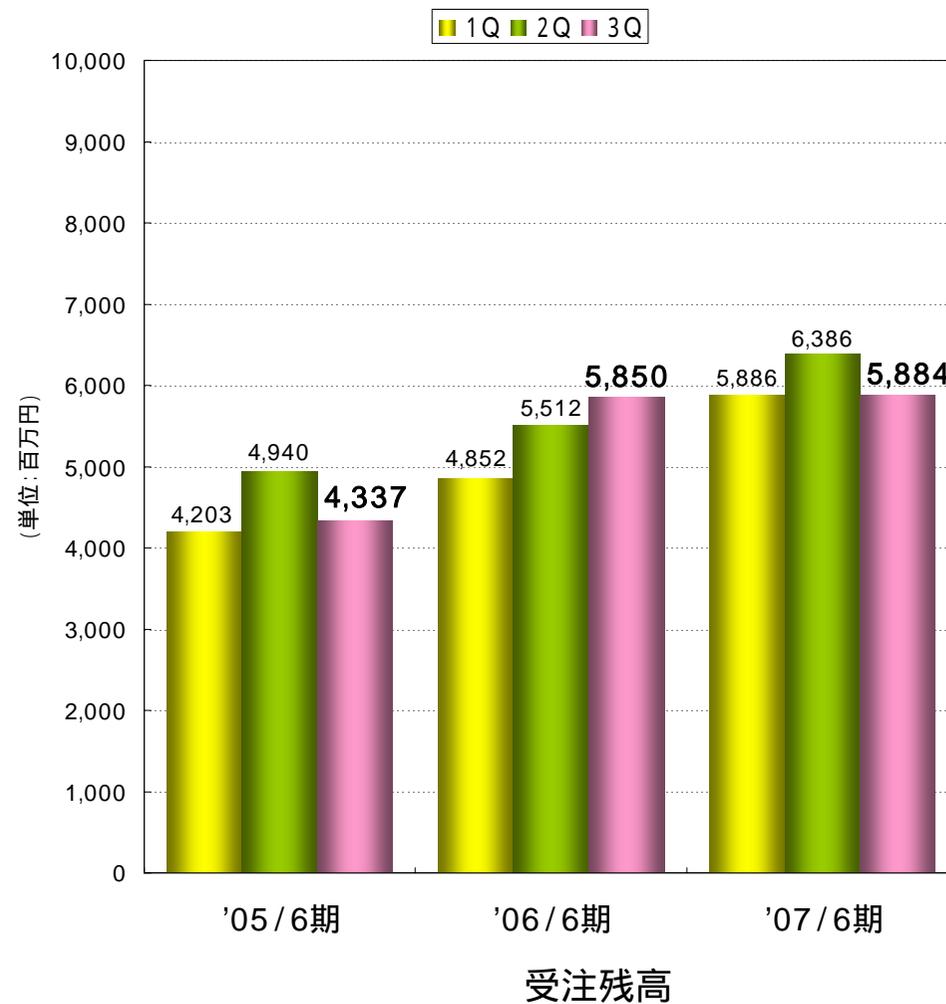
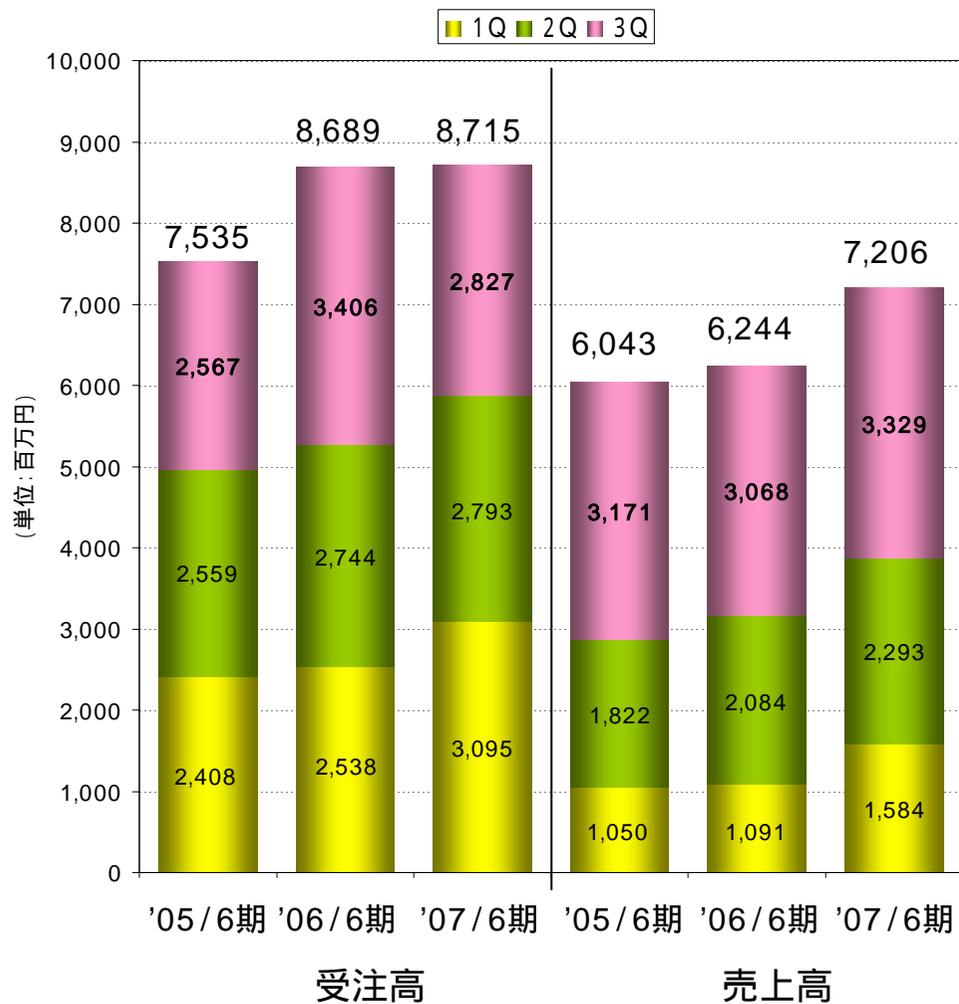
単位:百万円

	'06/06期 3Q	'07/06期 3Q	増減額	増減率
受注高	8,689	8,715	26	0.3%
売上高	6,244	7,206	962	15.4%
営業利益	160	606	767	—
経常利益	219	553	772	—
純利益	143	292	436	—

中間決算期に引き続き、好調に推移

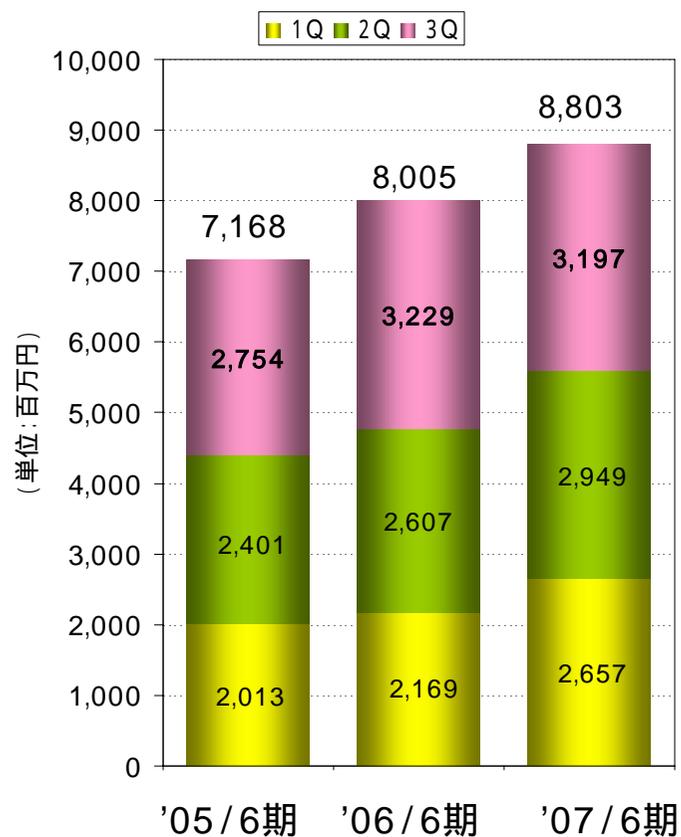
- 売上高増加要因
 - － 好調な受注により、稼働率が高まった
- 利益増加要因
 - － 企画提案営業力強化と受注増による、利益性の高い仕事の受注
 - － 受注増による稼働率のアップ
 - － 不採算プロジェクトの減少と不採算ビジネスからの撤退による負担軽減

受注高・売上高・受注残高の推移

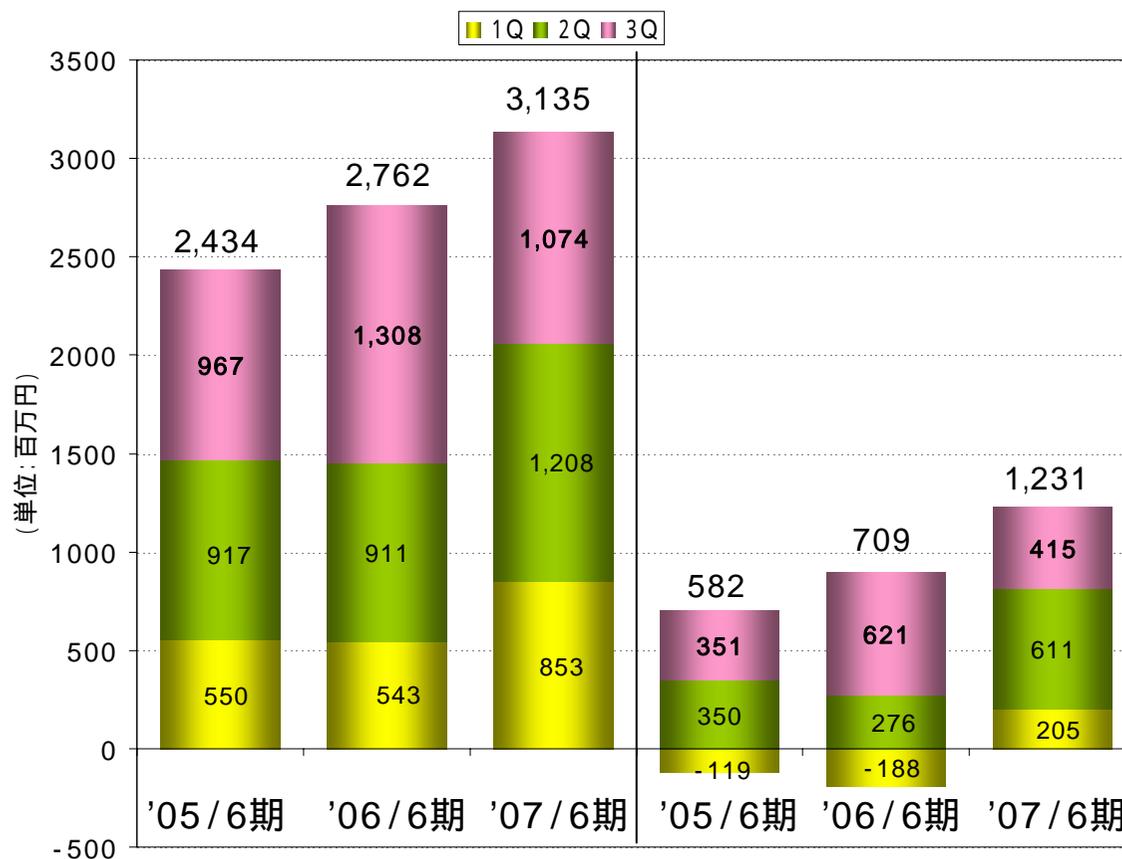


知価創出高・知価創出利益の推移

当社ではソフトウェアの開発など、受注から売上までの期間が長いプロジェクトがあるため、進捗度合いを金額換算した業績管理・予測・レビューのための内部指標である工事進行基準を開示しております。



知価創出高



知価創出利益

知価創出利益(販管費含む)

当年度業績連動の賃金制度を導入しているため、年度末においては人件費の変動により利益が変動する可能性があることを予めご了承ください。

2. 財務諸表

比較貸借対照表

単位:百万円

	'06/6期3Q	'07/6期3Q	対前期増減額
流動資産	5,189	5,352	163
現金・預金	1,017	1,212	194
売上債権	1,745	1,553	162
仕掛品	1,515	1,876	361
固定資産	6,970	6,868	102
資産合計	12,160	12,221	61
流動負債	5,821	5,683	137
短期借入金	3,645	3,110	535
固定負債	3,401	3,021	380
長期借入金	2,342	2,017	325
負債合計	9,222	8,704	518
純資産合計	2,937	3,516	579
負債・純資産合計	12,160	12,221	61

➤ 資産の部

- 売上債権の回収が進み、現金・預金が増加
- 仕掛品が増加している理由は、将来に向けた投資プロジェクトの影響

➤ 負債の部

- 短期借入金、長期借入金ともに減少し、有利子負債比率は49.2% 42.0%へ低下

➤ 純資産の部

- 利益改善により、繰越利益剰余金が増加

「一年以内に返済予定の長期借入金」は短期借入金に含めて計算しております。

比較損益計算書

単位:百万円

	'06/6期3Q	'07/6期3Q	対前期増減額
売上高	6,244	7,206	962
売上原価	4,351	4,695	344
売上総利益	1,892	2,511	618
販売管理費	2,053	1,904	149
営業利益	160	606	767
営業外収益	16	22	6
営業外費用	74	75	0
経常利益	219	553	772
特別利益	26	44	17
特別損失	34	45	11
税引前 当期純利益	227	552	779
法人税、 住民税、事業税	7	166	158
法人税等調整額	90	93	184
当期純利益	143	292	436

➤ 売上高

- 受注増の影響で15.4 %増加

➤ 売上総利益

- 稼働率が高まったことと、利益性の高いプロジェクトが増加したため、売上総利益率は30.3% 34.8%と4.5ポイント改善

➤ 営業利益

- 売上総利益率改善と、販売管理費の縮小により、営業利益が増加

➤ 市場環境

- 顧客である通信業、建設業、製造業の情報化投資の意欲が回復したところに、当社の提案営業がマッチした

キャッシュ・フロー計算書

単位: 百万円

	'06/6期 3Q	'07/6期 3Q
期首残高	303	386
営業活動CF	585	1
投資活動CF	194	177
フリーキャッシュ フロー	780	178
財務活動CF	1,494	1,005
期末残高	1,017	1,212

当期CFの内訳

- 営業活動によるCF
 - 税引前当期純利益 552百万円
 - 売上債権の減少額 769百万円
 - たな卸資産の増加額 972百万円
 - 未払費用の減少額 456百万円
 - 法人税等の支払額 448百万円

- 投資活動によるCF
 - 投資有価証券の取得 180百万円

- 財務活動によるCF
 - 短期借入金の純増 1,200百万円
 - 長期借入金の純減 38百万円

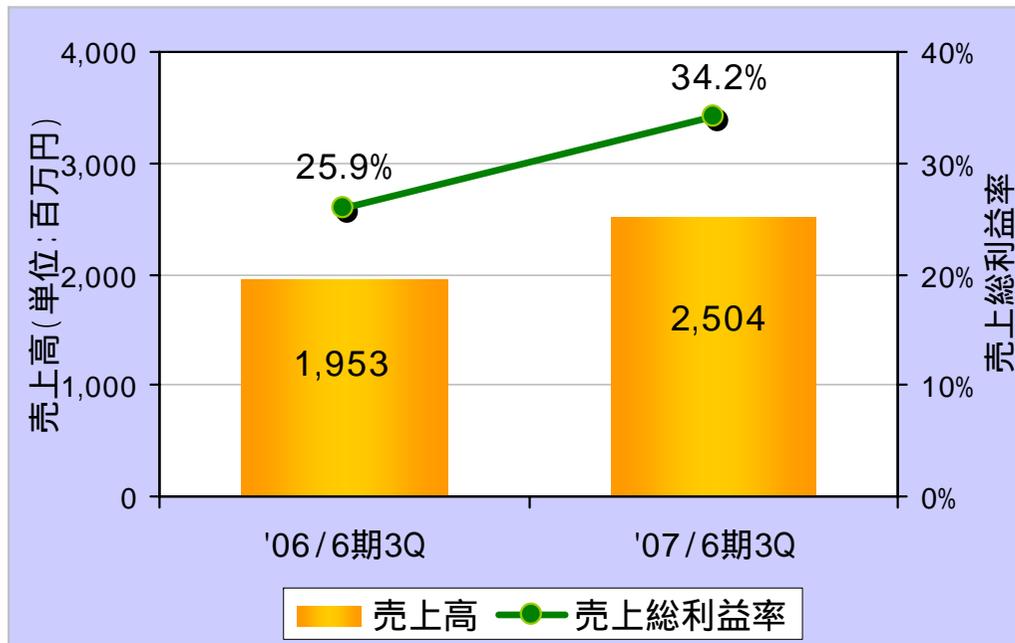
3. セグメント別状況

注) 当社のセグメント区分と名称は、2007年6月期中間決算に変更いたしました。
詳しくは、中間決算説明会資料の「セグメント別状況」をご覧ください。

セグメント エンジニアリングコンサルティング

単位:百万円

	'06/6期3Q	'07/6期3Q	増減率
売上高	1,953	2,504	28.2%
売上原価	1,447	1,647	13.9%
売上総利益 (利益率)	506 (25.9%)	856 (34.2%)	69.2%



- ❖ 防災・耐震・数値解析
- ❖ 建築構造設計
- ❖ マーケティング・意思決定支援コンサル
- ❖ 製造・物流系シミュレーション
- ❖ ソフトウェア開発の要求定義・基本検討

➤ 売上高

- ・ 建築意匠設計ビジネスからの撤退により落ち込んでいた売上高が、他ビジネスの成長により回復

➤ 売上総利益

- ・ 受注好調により、利益性の高い仕事を選択
- ・ 受注増により、稼働率が高まった

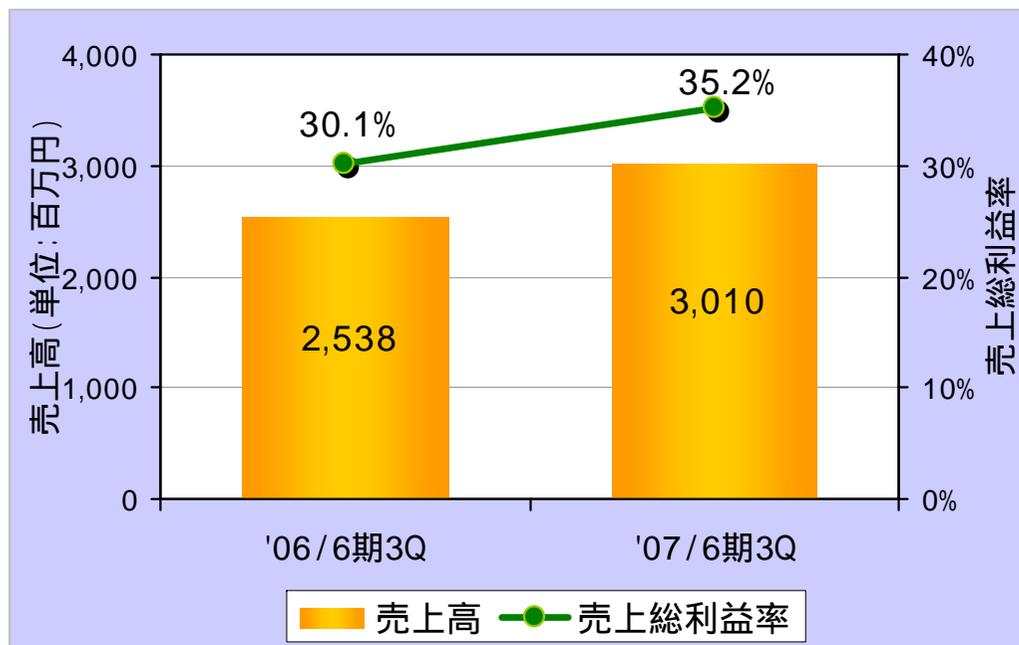
➤ 市場環境

- ・ 通信キャリアや研究所など、通信業向けのソフトウェア基本検討や研究開発業務が好調
- ・ 建設業向けの構造設計監理業務や構造設計コンサルティング、解析コンサルティングが好調

セグメント システムソリューション

単位:百万円

	'06/6期3Q	'07/6期3Q	増減率
売上高	2,538	3,010	18.6%
売上原価	1,775	1,951	9.9%
売上総利益 (利益率)	763 (30.1%)	1,058 (35.2%)	38.7%



- ❖ 移动通信・モバイル・ネットワーク通信システム
- ❖ 製造業向け営業・設計支援システム
- ❖ マルチメディアソリューション
- ❖ 構造設計支援システム

➤ 売上原価

- ・ 受注増により、外注委託費が増加

➤ 売上総利益

- ・ 受注好調により、利益性の高い仕事への移行が進んだ
- ・ 不良プロジェクトが減少

➤ 市場環境

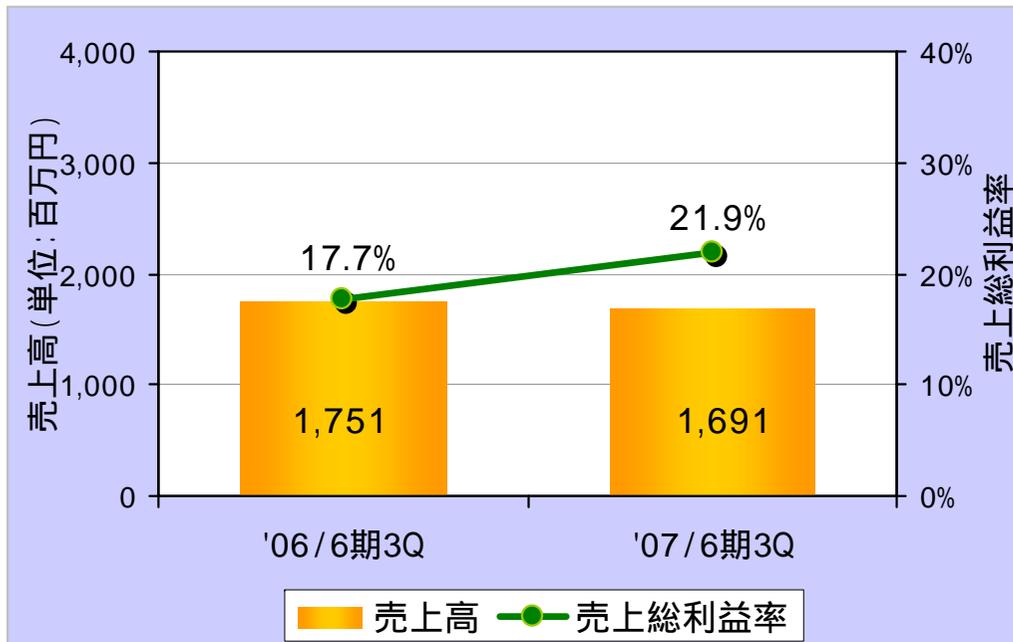
- ・ 特に通信キャリアなど通信業向け、住宅・設備メーカーなど製造業向けのソフトウェア開発が好調

セグメント プロダクツサービス

単位:百万円

	'06/6期3Q	'07/6期3Q	増減率
売上高	1,751	1,691	3.4%
売上原価	1,442	1,321	8.4%
売上総利益 (利益率)	309 (17.7%)	370 (21.9%)	19.6%

当セグメントの売上原価には、専属販売部門の販売費を加算しております。



- ❖ 設計者向けCAEソフト
- ❖ 構造解析・耐震検討パッケージソフト
- ❖ マーケティング・意思決定支援ソフト
- ❖ 通信業向けシミュレーションソフト

➤ 売上高

- ・ 土木・CADパッケージビジネスの撤退により縮小
- ・ 売上高の縮小は 07/6期の一時的な現象であり、今後の傾向を示すものではない

➤ 売上原価、売上総利益率

- ・ これらの伸びは、土木・CADパッケージの専属販売部門廃止による影響

➤ 市場環境

- ・ 製造業向け設計者支援ソフトCOSMOSシリーズや、通信業向けネットワークシミュレーターQualNetの販売が好調